令和８年第２回議会定例会（諸般の報告）

開会に当たり、諸般の報告を申し上げます。

はじめに、「ウエイトリフティングの全日本選手権に出場した『安藤選手』『鈴木 選手』の活躍について」申し上げます。

５月２９日に開催されたウエイトリフティングの全日本選手権において、白井市出身でふるさと大使の安藤美希子選手と鈴木梨羅選手が出場しました。

結果は、安藤選手はスナッチで２位と健闘し、鈴木選手はクリーン＆ジャークで１位、スナッチを合わせたトータルで２位という成績を収めました。

市民を代表し、心から敬意を表するとともにお祝いを申し上げます。

お二人の、失敗を恐れず最大重量に挑戦する不屈の精神は、市民の心を大きく揺さぶり、何かをチャレンジするきっかけや勇気を与えたことと思います。

また、お二人にはふるさと大使としても活躍していただいており、試合の時の真剣な表情とは変わって、素敵な笑顔で白井の魅力を多方面にＰＲ・発信していただいております。

白井の宝であるお二人の、更なる高みへの挑戦と益々のご活躍を、これからもオールしろいで全力で応援してまいります。

次に、連携協働による持続可能なまちづくりを推進するため、包括連携協定を４件締結しましたので報告いたします。

まず、１件目は、独立行政法人 都市再生機構との間において、若い世代の定住促進を軸とした住みやすいまちの実現に向けた連携に関する協定を令和８年３月２６日に締結しました。

独立行政法人 都市再生機構と連携することにより、若年・子育て世帯向けの選択肢の充実や子育てしやすい居住環境・サービスの充実などに取り組み、市民サービスの向上を図ってまいります。

２件目は、イオンモール株式会社との間において、子育て、教育文化、健康福祉、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の

発展と市民サービスの向上に資する協定を令和８年４月６日に締結しました。

イオンモール株式会社と連携することにより、子育て支援、教育の推進をはじめ、災害対策・防災・防犯に関することや産業・観光の振興に関することなどに取り組み、市民サービスの向上を図ってまいります。

３件目は、ＮＴＴグローバルデータセンター・ジャパン株式会社、ＮＴＴ東日本 株式会社、ＮＴＴアーバンソリューションズ株式会社、株式会社ＮＴＴアグリテクノロジーの４者と、データセンターの開発・運営を契機とする市の地域活性化に関する協定を令和８年４月１７日に締結しました。

ＮＴＴグループ４者と連携することにより、それぞれの強みを活かし、スマート農業等、農業の生産に関することや新たな交通システムに関することなどに取り組み、市民サービスの向上を図ってまいります。

４件目は、スリー・エックス・スリー バスケットボールのプロチームである「北総ライノス」を運営する株式会社 backseat と、市民サービスの向上 及び健康増進、豊かな社会生活の実現に資する協定を令和８年６月４日に締結しました。

株式会社 backseat と連携することにより、バスケットボールを通じた地域振興や地域貢献に取り組み、市民サービスの向上を図ってまいります。

市では、今後も民間企業の活力を活かし、連携協働による持続可能なまちづくりを推進してまいります。

最後に、株式会社千葉白井農園の農業参入について、進展がありましたので改めて報告します。

白井市に農業での企業参入を予定している株式会社千葉白井農園が申請した「強い農業づくり 総合支援交付金【産地基幹施設等支援タイプ】」の事業実施計画について、事業者より市に申請があり、千葉県を通じて国に申請したところ、令和８年５月１４日に千葉県より、国から計画が承認された旨の通知がありました。

今後のスケジュールは、令和８年７月からハウスの建設に着工、令和９年３月に完成予定となっております。

株式会社千葉白井農園は、主に関西でハウス栽培を行っている株式会社ゼブラグリーンズの完全子会社であり、関東圏では初の進出になります。

本事業の特徴は、統合環境制御システムを活用したスマート農業技術及び高軒高ハウスにより長期多段栽培が可能となることなどから、新たな生産方式の導入に関する「生産方式革新実施計画」として、令和７年１２月に農林水産大臣から認定を受けた、県内２つ目の事例となります。

また、新しい都市近郊型農業として、都市ガスを活用した施設園芸となっております。

都市ガスを利用することで、他の化石燃料利用と比較して二酸化炭素や窒素化合物等の排出量が削減でき、環境にやさしい農業の実現に配慮した施設となる予定です。

市としては、都内等の大消費地が近いこと、物流の都合が良いことなどの好条件を踏まえ、今後も「白井市企業誘致基本方針」に基づき、農業に関する企業誘致にも引き続き取り組んでまいります。

以上で諸般の報告を終わります。